

探究を通じた地域課題解決の取組

高校名 北海道上ノ国高等学校

市町村名 檜山管内 上ノ国町

活動名
上ノ国町
地域・学校 Win-Win-Win プロジェクト



1 活動の概要

北海道上ノ国高等学校と上ノ国町との共通理解のもと、学校が上ノ国町を含む檜山管内の多様な関係機関と協働し、地域の資源を生かした総合的な探究の時間を中心とした学習を推進することにより、実施校に在籍する生徒に対するシビックプライドの醸成や地域における地域づくりの視点への気づきを促すなど、地域活性化の一助とする。

2 取組内容と効果

<主な取組内容>

■ 実施校の魅力化に向けたキックオフミーティングの実施

- ・講演会や地域住民との交流を通して、高校と地域が協働して地域課題の解決に向けた取組を行うことについて共通理解や協働意識の醸成を図った

■ 地域課題への主体的な参画を目指した総合的な探究の時間の実施

- ・総合的な探究の時間における地域課題の解決に向けた学習の実施による生徒のキャリア教育やシビックプライドの育成
- ・教職員、地域住民を対象とした地域コーディネーターに関わる研修会の実施

■ 持続可能な地域づくりの主体者としての意識の醸成に向けた講演会の実施

- ・一年の振り返りとして、生徒、教職員、地域住民を対象とした講演会を実施

■ 地域及び実施校の魅力の発信

- ・「探究チャレンジ道南」での発表や、「ふるさと高校生議会」などを通じて、本事業の成果を積極的に発信することにより、地域の魅力向上や実施校に対する地域の理解や中学生に対する実施校への進学意欲の向上を図る

<取組の効果>

- 高校生が町の課題を自分事として考えるようになり、当事者意識の土台が創られた。
- 地域との新たなつながりを創出した。
- 探究学習を通じた町の魅力化の可能性について、町関係者と共有した。
- 地域で活躍するステークホルダーとの意見交流を通じて、多角的な視点で町の課題と向き合い探究するようになった。
- 生徒・学校・地域が関わることで、互いに Win-Win-Win の関係のより一層の構築につながった。
- 研修を通して、教職員にも意識の変化が生まれた。
- 発想の転換につながる視点を知ることで、新たな視点で地域の魅力を考えることができるようになった。
- 都会と地方の見方、価値観について客観的に捉え直し、町の魅力について再発見した。
- 町関係者から、高校生と連携した取組について相談を受けることが多くなった。
- 学校見学会等の場で、中学生や保護者、地域住民の方々から、地域課題解決の取組について話題や評価をいただくことが増えた。

3 事業実施のプロセス

実施の きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 檜山振興局地域政策課地域政策コラボ事業「檜山地域関係人口定着促進事業」（R5～R7）の1年目として実施
活動実施から 活性化の手順	<p>.....前年度準備.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 高校、振興局、教育局での実施に向けた協議 ■ 学校長による教職員への説明 <p>.....今年度.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1, 2年の総合学習で実施 ■ 「キックオフミーティング」の実施 産業能率大学経営学部教授 藤岡 慎二氏 ■ 「マチ×ヒト 協働みらい会議」の実施 町民（7名参加）の協力のもと活発な意見交換 ■ 教職員、地域関係者向けに「地域コーディネーターに係る講演会」を実施 元上士幌町教育委員会地域協働専門員 明石穂乃香氏 上士幌高等学校卒業生 齊藤 香暖氏 ■ 「上ノ国町地域探究学習成果発表会」を実施（1年生） ■ 「ふるさと高校生議会」による町への提言を実施（2年生） ■ 講演会の実施（1年の振り返り） （株）日本総合研究所主席研究員 藻谷 浩介氏 <p>.....次年度.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 次年度に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ 自走できるよう地域との関わり継続 ・ 学校と地域をつなぐコーディネーター人材の確保



キックオフミーティング



地域コーディネーターに係る講演会



講演会の様子

4 推進体制

組織・機能	有無	概要（人数・所属・謝金の出所等）
学校運営協議会	○	15名（研修会9名参加 意見交流会10名参加）
コンソーシアム	×	
コーディネーター	○	1名（無償）
地域学校協働本部	○	町で設置している。
地域連携担当教諭	○	1名
その他の連携先	○	檜山振興局
高校のデータ		<生徒数・教職員数> 生徒数 49名 教職員数 16名 <所在地> 〒049-0695 檜山郡上ノ国町字大留 351 番地 <電話番号> 0139-55-3766 <HPのURL> http://www.kaminokuni.hokkaido-c.ed.jp/

地域の資源を活用した体験的・探究的な取組

高校名 北海道羽幌高等学校

市町村名 留萌管内 羽幌町

活動名

関連機関等との連携による総合的な探究の時間の実践



海鳥を守る為の清掃活動

1 活動の概要

- 総合的な探究の時間において、地域の自然、仕事、歴史を学ぶことを通して、自己の在り方・生き方を考えながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を高めることを目標にして取組を実践している。
- 1 学年では地域の自然を知ることがテーマに、羽幌シーバードフレンドリー推進協議会（SBF）をはじめ官公庁、地域企業と連携し、ビオトープや水田での生物調査や樹木調査などの体験的・探究的な活動を行っている。2 学年以降では地域の産業や歴史をテーマに、かつてあった炭砦や国鉄などの歴史や、農業や漁業など現在の地域を支える産業基盤について探究している。
- 令和 5 年度からは、留萌教育局が実施している「留萌管内高等学校 SDG s ・ゼロカーボンプロジェクト」に参画し、外部機関や他校と協働した探究を推進している。

2 取組内容と効果

<主な取組内容>

- SBF 等関連機関との連携（1 学年）
 - 1 講話
 - ① 環境について、羽幌町環境基本計画（SBF）
 - ② 生態系と生物多様性（環境コンサルタント）
 - ③ 農業水産教室（留萌振興局）
 - ④ 羽幌町特別栽培米（地元農家）
 - ⑤ 環境プログラム（北海道海鳥センター）
 - 2 共同活動
 - ① 植樹活動、下草刈り、樹木調査（SBF）
 - ② トンボ相調査、水質調査（SBF 等）
 - ③ 海鳥を守る海岸清掃（SBF）
- 留萌振興局及び留萌教育局との連携
「SDG s ・ゼロカーボンプロジェクト」（1・2 学年）
 - 活動内容
 - ① キックオフミーティング（管内 3 校との交流）
 - ② 北海道大学でのプレワーク
（探究テーマに関わる知識や調査方法の収集）
 - ③ フィールドワーク
（留萌振興局との連携、初山別川等での調査）

<取組の効果>

- 関係機関等と連携することで地域の自然についての関心が高まるとともに、テーマに関する知識や、調査・分析の手法のレクチャーを受け、探究活動の成果を効果的にまとめることができた。
- 探究の過程で、課題の発見と解決への取り組みに必要な知識や経験の蓄積により、探究の意義や価値への理解が深まった。
- 地域社会の歴史や現状を学ぶことにより、探究活動における課題や問いを主体的に見だし、活動に取り組むことができた。
- 局事業に参画することで、主体的・協働的な取組が促進され、様々な視点から良さを見出し、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことにつながった。

3 事業実施のプロセス

実施のきっかけ	<p>■今以上の実践的な態度や能力の育成を図る</p>
活動実施から活性化の手順	<p>-----継続活動-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 羽幌高校と SBF 等関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス活動 ・ 講話①（環境、羽幌町基本計画） ・ 講話②（生態系、生物生態系） ・ 農林水産教室 ・ 植樹活動、下草刈り、樹木調査 ・ 羽幌町特別栽培米見学 ・ トンボ相調査、水質調査 ・ 海鳥を守る海岸清掃 ・ 環境プログラム ・ まとめ <p>-----R5年度-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 留萌振興局及び留萌教育局との連携 <ul style="list-style-type: none"> 6月 ・キックオフミーティングの実施（羽幌高校含め管内4高校参加） 8月 ・プレワークショップの実施 会場：北海道大学、 参加者：管内高校生徒 12 名、 引率 3 名 活動内容：探究テーマに関わる知識及び調査方法の収集 9月 ・探究学習探究学習指導方法研修会 ・事前指導方法検討会の実施 ※ 探究学習の充実に向け、教員を対象に実施 10月 ・フィールドワーク（初山別川等） ・必要なデータを収集等 ※ 留萌振興局環境生活課職員による実技指導含む 12月～2月 ・成果発表（探究チャレンジ等）



樹木調査



SBF 講話



マイクロプラスチック調査

4 推進体制

組織・機能	有無	概要（人数・所属・謝金の出所等）
学校運営協議会	×	
コンソーシアム	×	
コーディネーター	×	
地域学校協働本部	×	
地域連携担当教諭	○	4人（探究担当1人、地域連携担当3人）
その他の連携先	○	羽幌町、振興局
高校のデータ		<p><生徒数・教職員数>生徒 149 人（1 学年から 57、36、56）・教職員 20 人</p> <p><所在地> 北海道苫前郡羽幌町南町 8 番地</p> <p><電話番号> 0164-62-1050</p> <p><HP の URL> http://www.haboro.hokkaido-c.ed.jp/</p>

探究を通じた地域課題解決の取組

高校名 北海道津別高等学校

市町村名 オホーツク管内津別町

活動名
つべつ学 ～政策提言から実現へ～



北大マルシェでのインタビューワークショップの様子

1 活動の概要

- 1年次「つべつ学Ⅰ（2単位）」では、第1次産業を中心とした単元について学び、更に分野別探究で各単元を深く探究し、その結果を発表する。
- 2年次「つべつ学Ⅱ（2単位）」では、地域の歴史と行政について学んだあと、北海道大学との高大連携事業で、自分の未来と津別町の未来を結びつけて探究し、成果報告会で津別町の未来を政策提言する。
- 3年次「つべつ学Ⅲ（1単位）」では、ビジネス探究とインターンシップを行い、3年間のまとめとして地域へ還元できることを考え、成果物制作と発表を行う。
- 「つべつ学」による探究活動は、地域との連携を通して、確かな学力を育み、特性に応じた学習とキャリア教育を通して夢を叶え、地域での体験的・探究的な活動を通じて、心豊かな生徒を育てるというスクールミッションを達成させる中心に位置づけている。

2 取組内容と効果

<主な取組内容>

■ 未来プロジェクト委員会を設置

本委員会では、「つべつ学」のコーディネーターとして定例プロジェクト会議で単元実現に向けた連絡・報告・相談・課題について共通理解をはかっている。

■ 多様な主体との連携とカリキュラム

「つべつ学」の各単元は①講義、②巡検、③課題解決活動、④発表を基本とし、地域資源を活用した様々な探究活動と、北海道大学公共政策大学院 HALCC との高大連携事業で探究活動を実施している。地域との連携協働体制は、大きく分けて教育・行政・地域人材に分別されるが、全ての単元において地域の「ヒト・モノ・場所」との連携がある。

■ 探究活動の評価の可視化

探究学習を通じて身につけさせる資質・能力を明確にした年間計画や単元配列表を作成するとともに、レーダーチャートによる生徒の自己評価システムを開発した。

<取組の効果>

- 委員会が中心となり、教職員が数年かけて築いてきた津別町の企業や団体、NPO 法人等の連携により「つべつ学」の全ての単元が成立している。
- 全教員に各単元を割り振ることで、学校全体の取組になるとともに、教員ひとりひとりの探究における資質向上が図られている。
- 探究学習では、小さな探究サイクルを回しながら、地域課題解決に向けた大きな探究サイクルを回すことができている。
- 2年次では行政や経済について北大生がメンターとなり学びを深めることで、より具体的な政策提案ができるようになってきた。
- 3年間のつべつ学で、地域の方々の温かさや高校生への期待を感じる場面が多数あった。
- 身についた資質・能力を可視化することで生徒が達成度を実感できるため、学年が上がるにつれて達成度が高くなり、課題解決に向けた考え方ができる生徒が増加した。
- 今後は、地域との連携において培った資質・能力を地方創生やキャリア教育と一層結びつけて展開することが期待できる。

3 事業実施のプロセス

実施のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習指導要領の改訂に向けて、平成 29 年に「未来プロジェクト委員会」を立ち上げ、学校の課題や育成すべき生徒像を全体で議論し、高校魅力化の一環も兼ねて、令和元年から「つべつ学」をスタートさせた。
活動実施から活性化の手順	<p style="text-align: center;">——平成 29 年度から——</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 未来プロジェクト委員会の活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の研究 ・ 津別高校を取り巻く状況の調査研究 ・ 他校の事例研究（道内・道外への視察） ・ 育成すべき生徒の将来像の検討 ・ 研修会の実施 等 ■ 町役場、JA、地元基幹産業、地元企業、NPO 法人への説明と連携・協働への賛同を得る <p style="text-align: center;">——平成 30 年度から令和 2 年度——</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 北海道ふるさと・みらい創生推進事業「高等学校 OPEN プロジェクト」指定校を受け、教育課程と地域連携・協働体制を整理 ■ 学校設定教科「総合」における「つべつ学」の開始（令和元年度） 「つべつ学Ⅰ」地域産業の理解、「つべつ学Ⅱ」地方自治への理解、「高大連携事業」による地域創生に向けての提言で構成 <p style="text-align: center;">——現在——</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「総合的な探究の時間」の取組として、未来プロジェクト委員会を中心に「つべつ学」をブラッシュアップ（現行カリキュラム） ・ 身につけさせる資質・能力を明確にした年間計画、単元配列表、シラバスの工夫 ・ 全教員による教科横断型学習プログラムの活用 等



地域の第 1 次産業【つべつ学Ⅰ】



地域の歴史と行政【つべつ学Ⅱ】



地域課題解決【つべつ学Ⅲ】



4 推進体制

組織・機能	有無	概要（人数・所属・謝金の出所等）
学校運営協議会	△	設置申請中
コンソーシアム	○	教育（北海道大学、津別小、津別中、認定こども園）、行政（町役場、消防署、オホーツク総合振興局）、地域人材・地域企業等（NPO 法人森のこだま、株式会社道東テレビ、JA つべつ、酪農、林業等）
コーディネーター	△	町には地域コーディネーターが 3 名いるが、現在は小中における活動が中心
地域学校協働本部	×	町には本部があるが、現在は高校との連携はない
地域連携担当教諭	○	未来プロジェクト委員会（5 名）
高校のデータ		<生徒数・教職員数> 生徒数 52 名、教職員数 16 名 <所在地> 網走郡津別町字共和 3 2 番地 2 <電話番号> 0 1 5 2 - 7 6 - 2 8 0 8 <HP の URL> http://www.tsubetsu.hokkaido-c.ed.jp/